

## 平成21年度 UT プロジェクト報告書要約

### 1. UT プロジェクトについて（背景・目的）

UT プロジェクトとは筑波大学教職員、紫峰会（筑波大学学生後援会）、茨城県工業技術センター繊維工業指導所職員等の有志による結城紬産業活性化を目指した産学官連携プロジェクトである。UT とは筑波大学 University of Tsukuba と結城紬 U-ki Tsumugi の頭文字から名付けられた。

結城紬は古代からの歴史のある茨城県の伝統工芸品であり、国の重要無形文化財にも指定されている。しかし着物文化の衰退により、現状では産業として維持・発展していくには限界があり、新たな成長支援を模索している状況にある。こうした中、長年、結城紬産業の様子を見てきた筑波大学教員が人的ネットワークを活かして筑波大学、茨城県、結城市、結城紬織物業者との産学官連携手法により、新商品開拓・販路拡大・学生の課外活動などを目指して平成21年度から始めた活動が UT プロジェクトである。

### 2. 「結城紬素材を活かした日用品コンテスト」

#### ① コンテストの意図・目的

結城紬について筑波大学の学生たちをはじめ市民に身近に接してもらい、結城紬産業活性化に資すること。平成21年度は織物の端切れ（反物から着物を作った後に残った余りの布）やきりすね（反物を織るごとに、織機の構造上織ることができずに残る糸）を結城紬産業界の好意で提供してもらい、こうした素材使った日用品のアイデアを募集し、各素材を一定のサイズ・量を参加者に無料提供して実際に製作してもらった。このようにして伝統的なテキスタイルの技術、文化を活かすことを学んでもらい、結城紬を広く紹介することを意図した。

#### ② 主なスケジュール

- \* 募集要項配布（平成21年9月）
- \* HP 立上げ（平成21年10月）
- \* 筑波大学学園祭 PR ブース設営（平成21年10月10日～12日）
- \* 一次審査デザイン募集受付（平成21年10月13日～11月6日ごろ）
- \* 一次審査会（平成21年11月12日）
- \* 一次審査通過者への端切れ・きりすねの提供（来訪・郵送）
- \* 二次審査作品募集受付（平成21年11月16日～平成22年1月8日ごろ）
- \* 二次審査（平成22年1月26日）
- \* 作品展示（平成22年2月、筑波大学、結城市にて）

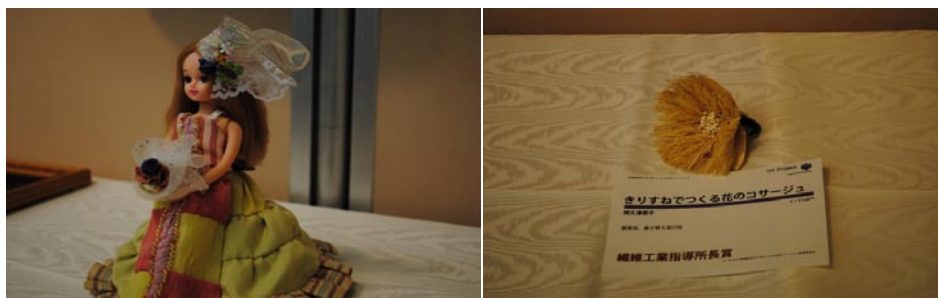
### ③ 入選作品の紹介

計17点の入選作品のうち、4点を紹介すると以下のとおりである。



(上左) 大賞「コサージュ」(海老根すみ江)

(上右) 新分野開拓研究会賞「ヨーヨーキルトのバッグ」(阿久津英子)



(上左) 繊維工業指導所長賞「リカちゃんのウェディングドレス」(大津麻衣子)

(上右) 繊維工業指導所長賞「きりすねのコサージュ」(阿久津英子)

### ④ 応募状況と意義

平成21年度のコンテストでは一次募集の段階で、端切れ34、きりすね10作品の応募があり、二次審査では端切れ32、きりすね10作品の計42作品の応募となった。そのうち17作品が筑波大学学生であった。二次審査の結果、17作品が入選作品となった。

提供された素材にはサイズ・量の制約があったものの、参加者は創意工夫により素材を活用して製作した模様で完成度が高く努力のあとが見られた。こうした過程により結城紬の伝統を身近に感じ、味わい、取り入れる経験ができた様子がかがわれた。また製作に必要な結城紬以外の素材は自由に使用が認められたため、和布のような別素材との組み合わせもあった。結城紬のPRの観点からは、普段、着物を購入する顧客以外の一般の人が紬の素材に実際に触れる機会が与えられた意義があり、参加者の中には予想に反して鮮やかな色の素材があるとの感想もあった。このような素材活用は近年注目の高まっているリサイクルの精神にも沿うものである。